

「府立高等学校再編整備方針(令和5年度から令和14年度)(案)」に対する府民意見等と大阪府の考え方について

- 募集期間 : 令和4年12月26日(月曜日)14時から令和5年1月25日(水曜日)24時まで
 - 募集方法 : 電子申請、郵便、ファクシミリ
 - 提出件数 : 15名(団体を含む)から延べ29件のご意見等(うち意見の公表を望まないもの2件)をいただきました。
- ご意見等に対する大阪府の考え方は以下のとおりです。
- ※ご意見等は、趣旨を損なわない範囲で要約しています。また、個人や団体を特定又は類推できる情報は削除しています。
 - ※1件の提出のうち、内容の異なるご意見等が複数あった場合は、複数の該当箇所に分割して回答しています。
 - ※同様のご意見等については、まとめて公表しています。

1 「1. 基本的な考え方」について

ご意見等の概要	ご意見等に対する考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の受け皿と公教育の保障のためにも今の府立高校の数を維持すべきであり、学校数の削減を一旦見直すべき。 ・定員割れの学校もセーフティネットの観点から必要。今までのやり方で公立高校の数を減らしていく方を転換すべき。 ・公立高校を減らすことは少子化に寄与するだけ。少子化対策をすべきであり、学校を減らすべきでない。 	<p>引き続き府内公立中学校卒業生数の減少が見込まれるなか、様々な選択科目の開講や展開授業など生徒の学習ニーズに応える学習活動や、学校行事、部活動など、活力ある教育活動の展開を図るためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えております。そのため、社会のニーズを踏まえた教育内容の充実と、就学機会の確保を前提とした効果的かつ効率的な学校配置を両輪として、活力ある学校づくりをめざし、再編整備を進める必要があると考えております。</p> <p>また、募集停止校の決定にあたっては、募集停止をしたとしても対象校に通っている生徒の出身地域に在籍する中学生が高校の就学を断念するような事態が生じないかを確認し、対象校を決定・公表してまいります。</p>
<p>教育予算を削減することは長期的にみて様々なリスクや弊害があり望ましくありません。</p>	<p>府立高等学校の再編整備については、教育予算を削減することを目的に行っているものではなく、社会のニーズを踏まえた教育内容の充実と、就学機会の確保を前提とした効果的かつ効率的な学校配置を両輪として、活力ある学校づくりをめざして推進することとしております。</p>

2 「3. 教育内容の充実」について

ご意見等の概要	ご意見等に対する考え方
<p>P2 3(2)ア 多様な教育実践校 さまざまな支援を必要とする生徒が安心していきいきと学校生活をすごすために、十分な教職員や専門職を配置すべき。</p>	<p>いただいたご意見については、再編整備を進めるにあたって、参考にさせていただきます。</p>
<p>P2 3(2)イ エンパワメントスクール 多様な教育実践校のメソッドも含め、展開をすすめてほしい。</p>	<p>エンパワメントスクールにおいては、今後、生徒の自己実現を支援するために専門人材の活用による支援の充実や、各校の生徒の状況を踏まえたカリキュラム編成の柔軟化等についての検討を進めてまいります。</p>
<p>P2 3(2)ウ 定時制の課程・通信制の課程 多様化する生徒の学び方のニーズに応えるためには、地域と連携する必要がある。定時制の課程には、広域から生徒が通学していることもあり、地域連携が希薄になりがちである。地域を巻き込んで学校の活性化がはかられるようにすべき。</p>	<p>いただいたご意見については、再編整備を進めるにあたって、参考にさせていただきます。</p>
<p>P2 3(2)ウ 定時制の課程・通信制の課程 夜間中学校では、外国にルーツのある生徒が多く、卒業後は夜間定時制高校へ進学するケースが多い。外国人府民が増えている中、夜間定時制高校での日本語指導等、積極的な取り組みをお願いしたい。また、日本語指導には、母語や母文化にも通じた職員の配置をしてもらいたい。</p>	<p>定時制の課程については、望ましい学習環境の確保や多様化する生徒の学び方のニーズに応えるための方策の検討を行ってまいります。</p>
<p>P3 3(3)エ 国際に関する学科 中学2年以降に編入した生徒には、国際文化科や英語科等における「海外から帰国した生徒の入学選抜」を受験する資格がある。大阪には出願資格のある生徒が相当数いるが、国際文化科について、中学校現場の教員に認識されていないと思う。母国で教室内言語が英語であった子どもたちは増えているため、そういった子どもたちが、より多く国際文化科へ入学するようにすると、生徒間の交流による語学力の向上が期待できるなど、国際文化科の魅力強化になるのではないかと。</p>	<p>ご指摘の「海外から帰国した生徒の入学選抜」は、選抜実施要項にある「第1 全般的な事項」の「Ⅲ 応募資格」の1に該当する者のうち、原則として、外国において継続して2年以上在留し、帰国後2年以内の者が志願できる選抜です。</p> <p>国際文化科等で「海外から帰国した生徒の入学選抜」を実施していることが、中学校の先生方にあまり認識されていないのご指摘の件は、今後の広報実施時の参考とさせていただきます。</p>

3 「4. 学校の配置」について

ご意見等の概要	ご意見等に対する考え方
<p>・「1学級40人、1学年7学級」を前提に試算を行っているが、これは教育条件としてきわめて劣悪だ。「1学級35人」で試算すれば、令和15年度の学級数は令和5年度とほぼ変わらない。教育条件改善をはからず40人学級を押しつける募集停止は不当。また、全国の公立高校の過半数は1学年6学級未満であり、「1学年6～8学級」の基準は合理的ではなく、より柔軟に対応すべき。方針案、計画案は撤回すべき。</p> <p>・中学生が減るからその分高校を減らすのではなく、少人数学級に踏み出すべき。30人学級の導入や、1学年4クラスぐらいの小さな学校も認め、地域に必要な学校は残すことを求める。</p>	<p>学級定員の設定については、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」により、40人を標準としているところです。また、本方針に基づく再編整備計画における学校数の算定にあたり、学級数について府立高校の普通科における基本的な募集学級数である6から8学級を適用しております。</p> <p>学校規模については、様々な選択科目の開講や展開授業など生徒の学習ニーズに応える学習活動や、学校行事、部活動など、活力ある教育活動の展開を図ることができる一定の規模を確保することが望ましいと考えております。</p>
<p>本案は生徒数減少に比例して高校数も減少させるものでその計算上という理論上では、反対もできないが、23日の教育委員会でも話が合ったが、公立の教育内容を充実させるためには、1クラス40人学級のままでよいのか。クラス定員の引き下げも含め、思い切った教育の変革をすべき。</p>	<p>ご指摘の23日の教育委員会会議は1月23日の1月定例教育委員会会議かと存じます。当該教育委員会会議に付議していた再編整備計画は本方針に基づき策定するものとなります。</p> <p>学級定員の設定については、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」により、40人を標準としているところです。一方、きめ細かな指導等を実践するために一部の府立高校では少人数学級の設定も行っております。</p>
<p>府立学校条例の3年連続定員割れが再編整備の基準となっているが、公立高校でも私立高校のように募集学級数を3クラス以下にするなどの学級数の少ない学校を設定すべき。</p>	<p>本方針に基づく再編整備計画における学校数の算定にあたり、学級数について府立高校の普通科における基本的な募集学級数である6から8学級を適用しております。</p> <p>学校規模については、様々な選択科目の開講や展開授業など生徒の学習ニーズに応える学習活動や、学校行事、部活動など、活力ある教育活動の展開を図ることができる一定の規模を確保することが望ましいと考えております。</p>
<p>入試の倍率が高倍率になっている府立高校がある状況を解消すべき。3年連続定員割れをした府立学校をつぶすのではなく、少人数でゆとりのある教育を行うことはできないのか。</p> <p>高校がなくなることとは地域の過疎化につながる。廃校の基準を変え、より多くの中学生が府立高校に進学できるようにすべき。</p>	<p>再編整備の個別校の精査にあたっては、活力ある学校づくりをめざして再編整備を推進する観点から、就学機会の確保を前提に、すべての高校を対象に、学校の特色や地域の特性、志願状況を踏まえて配置のあり方を検討することとしております。</p> <p>また、学校規模については、様々な選択科目の開講や展開授業など生徒の学習ニーズに応える学習活動や、学校行事、部活動など、活力ある教育活動の展開を図ることができる一定の規模を確保することが望ましいと考えております。一方、きめ細かな指導等を実践するために一部の府立高校では少人数学級の設定も行っております。</p>
<p>高校再編というから学校を減らすことにポイントがおかれているよう思うが、子どもの数が減っている今、公立高校の「全入」を前提にしてこそ、再編整備の話、「入ってよかった学校」「魅力づくり・特色づくり」「公平性」「卓越性」「多様性」の中身を論議し、創造していけるのではないかと。</p>	<p>再編整備にあたっては、社会のニーズを踏まえた教育内容の充実と、就学機会の確保を前提とした効果的かつ効率的な学校配置を両輪として、活力ある学校づくりをめざして推進することとしております。</p>
<p>・就学機会の確保を前提とした効果的かつ効率的な配置と言っているが、この間の再編整備は、地域で重要な役割を果たしてきた府立高校を地元の反対を無視して廃校にしており、「効率」を優先し、「就学機会の確保」を損なうものである。</p> <p>・P6 4(2)イ 地域の特性</p> <p>府立高校の募集停止の際は、地域振興の判断基準として、その地域の要望をしっかりと受け止めてほしい。地域の要望を重視する視点を取り入れる必要がある。</p>	<p>個別校の精査にあたっては、すべての高校を対象に、学校の特色、地域の特性、志願状況を踏まえて検討することとしております。また、再編整備の実施対象校については年度ごとに決定・公表することとしていますが、決定にあたっては、引き続き、地域の皆様からの要望もお聞きしてまいります。</p>

4 その他

ご意見等の概要	ご意見等に対する考え方
<p>学区撤廃が受験競争を広域化、激化させ、高校の魅力化・特色化が府立高校の序列化を進め学校間競争を煽っている。学区復活などで受験競争を緩和し、希望者全入をめざすべき。また、公立高校が役割を果たすためには一定程度の「志願割れ」は避けられない。教育と本質的に相いれない大阪府立学校条例第2条の規定の見直しを強く求める。</p>	<p>大阪府立学校条例の見直しや、選抜制度に関する事項は本方針の対象としておりません。</p>
<p>3年連続定員割れで学校再編の対象にするのは賛成。しかし、定員割れを防ぐために学校として、努力できることをもっと増やしてほしい。(例:クラス数を学校で決められるようにする。推薦制度を導入し、各学校のニーズに応じた生徒を2クラス確保できるようにする。試験の日程を私立入試に近づける。管理職を2.3年で転勤させない。)</p>	<p>選抜制度に関する事項、人員配置に関する事項は本方針の対象としておりません。いただいたご意見については、参考にさせていただきます。</p>
<p>入学者選抜の資格活用の導入によって、受験生は「英検2級を取れば入試に有利になる」とわかり、英検2級以上を取得したのち、他の教科の学習にシフトしている実態がある。塾や外部で対策できる生徒、受験料を払って何度も検定を受けなおす経済的・時間的余裕のある受験生が有利となっているなどデメリットが多いため、入学者選抜における英検の資格活用を早期に見直すべき。</p>	<p>選抜制度に関する事項は、本方針の対象としておりません。</p>
<p>私学助成の拡大よりも、公立高校へ力点を戻し、大阪の教育を復活させるべき。</p>	<p>再編整備にあたっては、社会のニーズを踏まえた教育内容の充実と、就学機会の確保を前提とした効果的かつ効率的な学校配置を両輪として、活力ある学校づくりをめざした再編整備を進めることとしております。なお、私学助成に関する事項は、本方針の対象としておりません。</p>
<p>大人気校においてはいまだに高い倍率を保っており、その不合格者が他の公立に進学しないため定員割れを起こしている。選抜を前期入試の時期に戻し、1クラス35人の少人数教育を始めるべき。</p>	<p>学級定員の設定については、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」により、40人を標準としているところです。なお、選抜制度に関する事項は本方針の対象としておりません。</p>